人穴小 学校だより

ふれあい

令和３年　11月1日
富士宮市立人穴小学校
第６号

ＴＥＬ５２－００４０

ホームページ　http://www.fujinomiya-shizuoka.ed.jp/e-school/14hitoana/

『自らをきたえ　共に生きる子』

「自然の中で育つすばらしさ…」

校庭から見える富士の山頂が雪化粧をし、校庭の芝生もあっという間に緑から黄色に変わりました。今年は秋をゆっくりと感じる間もなく、残暑から一気に冬の到来を感じています。寒暖の差が激しく子供たちの体調管理が心配になりますが、気温の低い日も元気いっぱいで、休み時間には運動場を走り回る姿を頼もしく眺めています。

10月は、運動会、授業参観など、学校での子供たちの様子を見ていただく機会があり、多くの保護者の皆様に来校していただきました。特に、勝ち負けにこだわって全力で競い合った運動会は、大きな成長の機会となったと思います。保護者の皆様の眼にはどのように写ったでしょうか。

さて、10月、11月は「読書の秋」にちなんで、「本をたくさん読もう」を生活目標にしています。子供たちには、少しでも多くよい本と出会ってほしいと感じています。11月の朝会では、子供たちに「本から学んだこと」として次のような話をしました。

最近、私の心に残った本は『自然欠乏症候群』という本です。少し難しい本ですが、本校の校医を務めてくださっている朝霧高原診療所院長の山本竜隆先生が書いた本です。少し内容を紹介します。

みなさんは、まだ小学生で毎日元気いっぱいですが、大人の中には「病気ではないが、何か具合がよくない」、「なんとなく体調がスッキリしない」という人たちが最近は増えているそうです。病院に行って「風邪ですよ」みたいに原因がはっきりすれば薬で治るでしょうが、特に悪いところはないようだけど「つらさ」があるという様子で、いったい何が原因かはっきりしないようです。この本を書いた山本先生は、それは「自然から遠ざかっている」ことが原因で、そのことを「自然欠乏症候群」と書いています。

特に自然の少ない都会で生活する人たちや電気製品ばかりに囲まれて生活する人たちは、自然と遠ざかることで、病気に近づいてしまうことがあって、それが原因不明の体の不調となってあらわれるそうです。

ですから、そんな人たちは自然に触れるために、休日に自然の多いところにキャンプに行ったり、山登りや釣りのようなレジャーをしたりするんですね。でも、それぞれ仕事や生活がありますから、誰でもいつでも十分に自然と触れ合えるかと言うとそうではないようです。また、山本先生は「自然欠乏」つまり「自然が足りていないよ」ということに気付かない人も多いと書いています。そして、病気に近づいていくことになってしまうのですね。

この本を読んで、みなさんが住んでいる人穴はすばらしいところだとあらためて感じました。こんなに自然に恵まれた学校はなかなかありません。耳を澄ますと野鳥や虫の声が聞こえます。木々の緑や草花のにおいや雨上がりの土のにおい、芝生を踏んだときの足の感触、いろいろな生き物との出会い、冬には今年も雪が積もるでしょうか…たくさんの自然がみなさんの周りにはいっぱいです。これはみなさんにとって宝物となると思います。この本は、そんな人穴のすばらしさをあらためて感じるきっかけとなりました。

一冊の本から何を学ぶか、何を感じるかは、人それぞれです。それぞれ違ってよいのです。心を動かされる出会いがあることが本を読むことの魅力だと思います。「読書の秋」、たくさんの本と出会ってください。